



2006年10月31日  
第18号

# 岡山大学工学部 同窓会報

編集・発行 岡山大学工学部同窓会事務局  
〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内  
TEL・FAX (086)255-8311  
印刷所/小野高速印刷(株)  
〒670-0933 姫路市平野町62 ☎079(281)8837

## TOPICS

挨拶(工学部長、退職者)	1~
学科近況、職場紹介	5~
新任・昇任・退職等教員、 叙勲者紹介	9
受賞研究、学位取得者 名簿	10~
会計報告、寄附者一覧、 広報等	14~

## 「大学院に重心が移動しつつある現状など」

工学部長 野木 茂次



岡山大学では工学部の教員は平成17年度から、工学部・理学部・農学部を基礎とする大学院自然科学研究科の所属に変わり、学部は兼任として担当するという、いわゆる大学院大学の組織となりました。文部科学省では、大学院設置基準を平成19年4月に改正することにより、大学院教育の組織的展開を強化し、国際的な通用性を向上させ、世界規模での競争力の強化を図ろうとしており、高等教育の重点は大学院教育の方にシフトしてきています。岡山大学でも、「大学院の組織および教育の実質化」のために、大学院の各種の委員会などを整備しつつあり、大学院の授業も体系的・組織的に再構築し、成績も客観的に正確に評価する方向へ動き出しています。さらに、産業界での取り組みの理解と課題の発見とができる高度な能力をもつ人材を大学院で育成するために、企業での比較的長期間のインターンシップを行う方向が打ち出され、岡山大学では「エンジニアリングデザイン能力の養成プラン—瀬戸内企業と協同した実践的キャリア形成」というプログラムが、平成18年度から5年間の予定で文部科学省の支援を受けることになり、経済産業省からも別のインターンシップ事業の試行を行うことが認められました。一方、平成18年4月には、大学院にMOT(技術経営)副専攻を開設し、特許・ベンチャー・マーケティングなどに関する授業を社会人をも受け入れて行っています。

平成19年4月には、学校教育法が改正され、大学教員のうち、助教授は準教授に、助手は助教と呼び方が変わります。これに伴い、助教も講義を持つことができるようになり、教授・準教授・講師・助教がほぼ対等になります。工学部では若手の教員が

研究での自由度を増して一段と活性化されるように、研究費の配分を基本的に全教員で均等にし、研究室毎ではなく個人への配分ができるようにしました。もっとも、経常的な研究費が減少していますので、外部資金の獲得が重要になっています。

平成16年度に独立行政法人となってからは、予算の使い方などでやや自由度が増した反面、国からの運営交付金が毎年1%ずつ減額され、公務員の定員削減に伴う従来はなかったような大幅な教員削減が行われるという厳しい状況が生まれています。教員個人の研究業績や教育・管理運営での実績を評価し、その結果をボーナスと昇給に反映させるということが、平成18年度から始まります。

工学部の建物の大型改修、すなわち建物の強度に必要な壁以外のほとんどをやり変え、耐震補強を行う大規模な改修が進行中です。昨年度には1号館(工学部本館の現在の呼称)の北半分が改修され、すっかり新しくなりました。平成18年7月からは南半分の改修工事に入っています。2号館(旧、合成化学科棟)と3号館(旧、電気電子工学科棟)の改修についても、文部科学省に概算要求を行っています。

少子化と全国的な工学系離れの影響を受けて、入学試験での志願者数が少しずつ減少してきており、その対策も重要になっています。高校と連携して科学技術への興味を喚起するために、スーパーサイエンス校などの高校生と本学の大学院生とが、一堂に集まって研究発表の交流を行ったり、高校への出前講義や、中・四国の都市での岡山大学の説明会を実施しています。

工学部の発展のために私どもとしては努力を重ねておりますが、卒業された方々が大学を外から見られて抱かれる様々なご意見・ご提言をお寄せ頂くことは、これからの改革に大変貴重なものと思っております。今後とも、是非、岡山大学工学部をご支援下さいますようお願い致します。

## 「虫の眼と鳥の眼と…風景の眺め方…」

阪田 祐作



2006年3月末に岡山大学を定年退職しました。1968年4月から丸38年間を岡山大学にお世話になり人生を過ごしました。大阪府立大学大学院博士課程3年間を終えたところで、当時指導

していただいていた恩師笠岡成光先生が、工学部における2番目の化学系学科である合成化学科の教授として赴任される際に、助手として採用されて岡山の地にやってきました。これが1968年4月のことで、現在の工学部2号館が合成化学科棟として竣工したばかりのピカピカの建物でした。

真新しい建物で、真新しいけど何も無いガラソとした実験室という空間に、大学院生時代に自作した手馴れた実験器具や実験装置類の配置を考えながら、また新規に購入したプログラム温度制御のできる当時としては最先端の高価な自記式熱重量分析装置の搬入を指揮したりして、ジャンパー姿が実験着であり、学生諸君と毎日汗かきながら充実した毎日でした。このように岡山大学での新人助手の研究生活の準備が始まりました。私の育った大学では助手の身分（職分）に机はあっても独立した部屋の無いのは当然です。夏ごろになってお昼休みに窓から外の道路を眺めていると、ほとんどの研究スタッフが助手の方も含めて、白いシャツにネクタイ締めて、背広着て食事に向かわれる風景に気が付きました。助教授以上になって初めて学生から「先生」と呼ばれるものだと思っていた私にはカルチャーショックでした（この話が、何を言っているのか判らないと思われる方も多いと思います。歴史の話ですからイマジネーションが必要です）。

さて、秋近くなってそろそろ実際に実験研究ができるぞーと思い、喜んだ頃に岡山大学内の景色が変わり始めました。岡山大学学生運動史でいう「機動隊学内乱入・学友不当逮捕（1968/9/17）」

ではじまる全共闘運動の嵐が1年半ほどキャンパスを吹き荒れました。彼らの論理は勇ましいが、私が学生時代に経験した安保闘争とは本質的に違う匂いは感じました。結局、勇ましい掛け声だけで物理的なモノの幾つかは壊れましたが、事の本質はあまり変らなかつたと思います。この間、実験器具や装置が破壊されないように心ある学生諸君と研究室に警護のために泊り込み、また実験データを紛失しないように保管のために時には自宅に持ち帰ったりしました。無駄に時間とエネルギーを消費しました（この話もまた、何を言っているのか判らないと思われる方も多いと思います。歴史の話ですから、必要と思われる方は検証してください）。

我々の岡山大学工学部は1960年に設置されました。これは工業技術・科学技術立国政策によって眼を見張る経済成長を実現するという国の強い意思（1960年12月政府「国民所得倍增政策」発表）に沿ったものです。考えてみますと、私の研究者人生はまさにこの線に沿ったものだと感じます。田舎の高等学校から大学に進学（1959）し、工学系大学院充実機運に乗じて（？）大学院に進学（1963）し、先に述べたように運命的に1968年に岡山大学に職を得たわけです。

はじめの2年ほどは学生運動の洗礼を受けましたが、私の研究生活がやっと軌道に乗りはじめました。その時うれしかったのは合成化学専攻の大学院工学研究科（修士課程）が設置されたことです。学生諸君の研究の質がおおきく向上しました。その後には工学研究科に博士課程が設置され（1985）、研究環境がすばらしく整備されてきました。また工業化学科と合成化学科は化学系として再編され、「精密応用化学科」となり（1987）、さらに改組をうけて「物質応用化学科」と改称されました。英文表記はDepartment of Applied Chemistryと万古不易でした。国立大学当時の「教官」身分は、国立大学法人になって「教員」

に変わりました。そして2005年4月からは教員の所属は大学院自然科学研究科に変わりました。このように組織・名称は変わりましたが工学部の風景は見ようによってはさほど変わっていません。

退職に当たっての挨拶に、このような組織の変遷をクダクダと書かせていただいた理由はこうです。眼前にある事象はいつも過去の履歴を引きずっているものだけということ。歴史の変化は見る人と観るひとで感じ方が違うということ。イメージネーションが大切ということ。風景は地を這う「虫の眼」でみるか、大空を飛ぶ「鳥の眼」でみるかで大きく違うということ。

私が研究室を預かる教授として勤めさせていた

だいたのは、1994年から2006年までの12年余りに過ぎません。当然、私よりも長く生きて時代の海を泳ぎ続けなければならない若い学生諸君に、「研究に限らず何事によらず、歴史の方向を誤らないように」大局をみる鳥の眼と、緻密に論理を磨く虫の眼の両方を忘れないことを、伝えるように心がけたつもりです。しかし判断するのは常に他人で、歴史です。そしてピカピカだった2号館も約40年を経て、ようやく大改装されると聞きます。私が退職するのも当然だと感じます。そして卒業生諸君の社会での活躍の様子が聞こえてくるのは大変うれしいことです。 以上

## 阪田祐作先生のご退官によせて

物質応用化学科 武藤 明徳

阪田祐作先生は平成17年5月20日に満65歳の誕生日を迎えられ、岡山大学の規定により本年3月31日をもって本学をご退職されました。

先生は、昭和40年3月大阪府立大学大学院工学研究科修士課程（化学工学専攻）修了後、同年4月大阪府立大学大学院博士課程（化学工学専攻）に進学され、昭和43年大阪府立大学大学院博士課程（化学工学専攻）単位修得退学後、同年4月に岡山大学工学部合成化学科助手に就任されました。

昭和43年11月に講師に、昭和45年7月に助教授に昇進され、平成6年2月岡山大学工学部精密応用化学科教授に就任され、化学反応工学講座を担当されることになりました。この間、昭和45年11月、多孔体における化学反応と物質移動に関する優れた研究成果により、京都大学より工学博士の学位を授与されました。その後、ご定年までの間、教育・研究の分野に数多くの業績を挙げられました。

研究面においては化学反応工学および触媒工学を中心として、主に化学工学分野において、触媒・吸着剤・吸収剤など機能性多孔質材料の創製、資源・エネルギーの有効利用（資源変化）プロセスの開発基礎研究ならびにマイクロリアクターの設計と反応系への応用開発に多数の優れた研究業績を挙げられました。とくに廃プラスチックを熱分解油化により石油精製プロセスに戻し、再び化学工業資源化しようとする研究は国家プロジェクトとして採用され、二回にわたり延べ6年間の研

究により実用化に向けて大きな成果を挙げられました。この分野では種々の学会で貴重な研究成果を発表されていましたが、阪田先生ら有志の研究者が1998年はじめに国内学会横断的に「プラスチック化学リサイクル研究会」を発足されました。発足以来、先生は幹事長として尽力され、その後、副会長・会長を歴任され、本研究分野では国内のみならず世界を先導する学会にまで大きく成長させられました。

また、学会活動では化学工学会中国四国支部長を務められ、支部活動の活性化に大きく貢献されました。また、岡山地区の化学企業と大学関係者との交流の場である岡山地区化学工学懇話会におきましては、長年にわたり幹事として企画運営に卓越した手腕を発揮され、地域に密着した産業活動にも大きく貢献されました。

研究室や大学での教育におきましては、「山梨県でマグロを獲る会」を主宰され、自分で考え自分で判断する姿勢を強く指導されました。この指導を受けた研究室の卒業生は、社会に出てから好評を受けているようです。

先生は本年4月に岡山大学名誉教授の称号を授与されてご退職された後、岡山大学特命教授として、研究推進・産学官連携機構 研究推進本部長として本学の研究活動にご貢献されております。これまでの先生のご功績とご尽力に対して深く謝意を表します。また、今後も本学へのご指導をお願いするとともにご健康を祈念申し上げます。

## 「退職に当たって」

北村 吉朗



今年の3月で岡山大学での40年間の教員生活に終止符を打ちました。1967年1月に工業化学科の助手に採用され94年10月に環境理工学部へ移るまで工学部でお世話になりました。1960年

に工学部に入学したときはこんなにも長く岡山大学で生活するとは夢にも思いませんでした。私が卒研で化学工学の研究室を選び大学院で化学工学を専攻したのは、化学プラントを設計したいという希望があったからです。将来自分の手で化学プラントをとというのが当時の夢でしたが、どこで道を違えたか一度も企業には勤めず、プラントどころか機器の設計にも一度も関わりませんでした。

工学部同窓会も会員数が増えましたが、私が設立に携わった頃は会員数も少なく、会員名簿も手作業で編集できる程度でした。工学部の設立10周年記念事業の一環として、同窓会の設立と名簿の作成準備をはじめたのはまだ大学紛争の余韻の残る中と記憶しています。当時機械工学科と電気工学科は同窓会がスタートしていましたが、工業化学科、生産機械工学科、合成化学科はまだ組織されておらず、学科同窓会と学部の同窓会との関係にいろいろなご意見があり、調整に苦勞した記憶があります。工学部同窓会の代表が会長でなく代表幹事であるのは、このような調整と当時卒業生も若く「会長」という名称では代表を受けて頂けないのでは考えたためです。時を経て会も大きくなりましたが、まだこの名称が引き継がれているのは多少後ろめたく感じています。

最終講義の準備で古い資料を捜したとき、工学部開学式の看板の入った写真に背丈ほどのアメリカワウの若木が写っているのを見つけました。今は図書館前の立派な並木に成長し岡山大学を代表する風景になっていますが、当時は南北道路の銀杏と同じく、学生歌に歌われているよりも弱々し

い苗木でした。岡山大学もこの40年間にフウヤ銀杏に劣らず大きく成長したと感じていますが、皆様はいかがでしょうか。さて、当時キャンパス一面に生えていたポプラの若木や月見草、またキャンパスを囲っていたカラタチの垣根も、いつ頃からかさっぱり見られなくなりました。改修前の座主川の、森の中をゆったり流れる小川のような風景を記憶している方もすっかり少数派になりました。建物もすっかり建て替わり、古い卒業生が訪れたとき記憶をたどるようなランドマークは、時計台か工学部本館ぐらいでしょうか、それも最近の改修で外観が変化しつつあります。キャンパス内は整備され年々きれいになっていくのは同窓生としてよろこばしいことですが、30年、50年単位で変わらない風景もまた重要かと思えます。特に多くの同窓生にとって、大学のキャンパスは切磋琢磨した青年時代の思い出と強く結びついている場所だと思います。同窓生・同窓会は独立法人化後の岡山大学を支える柱の一つとして重要ですが、時代を超えて同じキャンパスで学んだという共通の感性が大切ではないでしょうか。

退職前の数年間JABEEの認定に労力を割きました。そのなかで苦勞した一つが、学習・教育目標に社会の要求を配慮しているかという点でした。正直に言って、多くの学科でもあまり考えこなかったのではと推察します。最近日本を代表する化学会社の方と懇談の機会があり、現在の応用化学系では、製造現場で働き化学工業の経営者として育っていくべき若い人を供給する点に難色ありとのご意見を聞きました。これまで経験したことのない競争の時代にある大学はこの種の情報に敏感にならざるをえませんが、同窓会・同窓生がこのような情報や社会の要求の窓口として重要な役割をぜひとも担って頂きたいと願っています。

最後になりましたが、卒業生の皆様のますますの発展とご活躍を祈念します。

# 学 科 近 況

## 生物機能工学科 2006年度学科長 尾坂 明義

当学科は、各年度在学生諸君・諸嬢および教職員の皆様の努力により、これまで順当に発展してきました。心よりお礼申し上げます。学科の現状は大きな変化はありません。ただし、学生諸君・諸嬢の気質の変化、あるいは、化学的実験の初歩的操作の感覚的欠落はかなり激しいものがあります。以前は考えられなかったことですが、いつ頃からか、例えば濃硫酸をピペットで採取するときの危険の予知、何をすべきかという感覚がほとんどない学生の割合が多くなってきた様な



ことです。実験担当の教員は、このようなことも予測しながら、指導に当たっていますので問題はありませ

ませんが、以前よりは負担が増えていることは確かです。一方人事面では、明2007年3月から斎藤清機先生を皮切りに、少しずつ設立以来の教授陣の退官が始まります。また、人員削減の流れの中でおそらく学科教職員の構成がこれまでとは少しずつ変化して参りましょう。現在の活力を維持しさらに昂進しながら、そのような変革を遂げていくには卒業生の皆様のご支援が何よりの力となります。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

学科の教育研究の一つの要素に、国外研究機関との共同研究や国際的交流の進展をあげることができます。岡山大学ないし工学部あるいは、大学院自然科学研究科としてそれぞれの単位で相当数の国際交流協定が締結されています。今回は筆者が直接の担当窓口になっている、北京協和医科大学・生物工程研究所との国際交流の一例を紹介します。締結に至るためには、それまでにかんがりの交流が進んでいます。多くは、国際会議や論文のやり取り等で親しくなり、相互訪問をする等の活動が存在します。この事例では同研究所の張其清教授と国際会議で知り合い、その指導中の一人の学生を1997年10月から本学の博士課程学生として受け入れるところから始まりました。それが、現

在厦門大学医学部の助教授である任磊先生です。そして、2001年、大崎学部長のとき交流協定締結、2002年に学生交流の詳細について東辻学部長名で合意に達し調印した。同年10月には、北京協和医科大学の100周年記念式典に筆者が招かれて出席しました。そこには赤木医学部長（当時）も出席されており、本学医学部は北京協和医科大学と交流協定が存続していると、伺っています。北京協和医科大学は、中国で最初の西洋医学の医科大学できわめて優秀と聞いています。担当の教授の退官もあり、残念ながら現在では本学医学部との交流はそれほど活発ではないらしい。工学部では2007年が新しい協定期間の始まりであるため、その協定延長・停止の確認のため、今夏筆者は天津の北京協和医科大学・生物工程研究所を訪問し、本学の生体材料の研究についてセミナーを開催するとともに、張其清教授とも懇談し互いに協定の更新を確約し、来年には訪問団が本学を訪れ調印すること、教職員の短期・長期の派遣にもっと積極的に努力する等の合意を取り付けました。その後、北京に移動し北京の本校を表敬訪問しました。写真はその折のもので、いずれも北京市内。1枚目は昼食に立ち寄った市内でも有名なうどん店の様子。日本でいう打っかけうどんか、ビビンバの冷たいうどん版とでもいいたいでしょうか、その店内。もう一枚は協和医科大学東門前で、任磊先生・陳漢先生との記念撮影。

このような協定は、一人大学や担当窓口教員のためだけでなく、卒業生諸氏の益にも叶うものと考えています。その協定締結先関係者とのビジネスが持ち上がったとき、いろんな局面でこのような関係を十分利用されることが大切でしょう。また、大学側としては、単なる一覧表の提示だけでなく、両機関の窓口となっている教員やその連絡先を示し、有効に有機的に生かしていくことが大切でありましょう。



## システム工学科 2006年度学科長 則次 俊郎

システム工学科は、旧機械工学科から4研究室、情報工学科から1研究室が分離し、これらの5研究室を中心として平成8年（1996年）4月に設立され、現在、8研究室を擁する学科に拡充されている。設立当初より、機械、人、情報、エネルギー、環境などに関連する様々な分野のシステムを設計・運用するための知識や技術を備えた21世紀の技術者・研究者の育成を目的とした教育・研究を実施している。設立から10年以上が経過し、これまでに学部約430名、博士前期課程（修士）約230名、博士後期課程（博士）約40名の卒業生・修了生を社会へ送り出している。

本学科では、「人と機械の調和」の基本理念の基に、ロボットや機械システムの創造を通して社会に貢献する技術者の育成を目的としたカリキュラムを実施している。このカリキュラムは、平成14年度より、国際水準以上の質が保証された技術者教育プログラムとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）によって認定されている。平成15年3月に、75名の第1期JABEEコース修了生が卒業している。平成18年度がJABEE認定期間（5年間）の最終年度となるため、現在、学科では継続認定のための再受審に向けた準備を行っている。

前回報告した平成11年度以降の人事について紹介する。まず、システム工学科のみならず岡山大学発展のためご尽力された大崎紘一副学長の退職（平成17年6月）、匂いセンサの研究開発で活躍された廣田和弘教授の定年退職（平成17年3月）があった。また、橋本浩一助教授の転出（平成12年3月、現在、東北大学教授）、増田士朗助教授の転出（同年同月、現在、首都大学東京助教授）、柴田光宣技術職員の着任（平成12年4月）、鈴森康一教授の着任（平成13年1月）、宮本寛治助教授の転出（平成14年3月、現在、首都大学東京教授）、神田岳文講師の着任（平成14年4月）、鄧明聡助教授の着任（平成14年11月）、佐々木大輔助手の着任（平成15年10月）、島田行恭講師の転出（平成16年7月、現在、独立行政法人労働安全衛生総合研究所）、ガッパールホサム助教授の着任（平成16年12月）、永谷圭司講師の転出（平成17年3月、現在、東北大学助教授）、伊藤一之助手の転出（同年同月、現在、法政大学専任講師）、前山祥一講師の着任（平成17年8月）、水原啓暁

講師の着任（平成17年9月）、梶原康博助教授の転出（平成18年3月、現在、首都大学東京教授）、平嶋洋一講師の転出（同年同月、現在、大阪工業大学助教授）、村田厚生教授の着任（平成18年4月）、亀川哲志助手の着任（同年同月）があった。また、長年にわたり学科事務を担当いただいた妹尾清美さんが退職（平成17年3月）し、後任として児玉絵美さんが着任（平成17年4月）した。現在、教授8名、助教授3名、講師5名、助手3名、技術職員4名、事務職員1名により学科を運営している。

在学生の話題として特筆すべきこととして、平成16年7月に2年生を中心とする有志チームが「NHK大学ロボコン2004～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～」において初出場ながら準優勝の栄冠に輝いた。これ以来、学生達のロボコンへの関心が高まり、学内外へのロボコン参加やロボット製作を通してのものづくりの楽しさや難しさ、グループ活動など、通常の講義では得られない様々な体験をしている。これらは基本的には学生主体の活動ではあるが、学科としてもロボコンを創造教育の一環として位置付け、ロボット製作の指導など積極的な支援を行っている。

学科設立当初は、研究室や実験室としてプレハブを利用するなど、かなり窮屈な状況であったが、現在は工学部5号館へ3研究室、総合研究棟へ5研究室が移転し、教育・研究環境は以前に比べて改善されている。これらの8研究室では、それぞれの分野で積極的な学会活動を展開している。いくつかの全国規模の学術講演会が本学科の研究者を実行委員長として岡山大学で開催されている。また、社会の産学官連携の要請とともに、企業との共同研究や産学官研究プロジェクトに参画する研究者が増え、大学の研究とそれを実践する現場との融合が進みつつある。

「人と機械の調和」を基本理念とするシステム工学科の教育・研究内容は、少子・高齢化や環境問題への対応、安全・安心社会の実現など、次世代の工学技術に要請されるニーズに正に適合するものである。例えば、福祉介護ロボットやレスキューロボットなど本学科で研究するロボット技術や安全技術に対する社会の関心と期待は高い。このようなシステム工学技術を修得した技術者や研究者の必要性は今後ますます高まるものと考えられる。

卒業生の皆様の社会でのますますのご活躍をお祈りするとともに、皆様の手によってシステム工学科の理念が社会に広くかつ深く浸透することを期待しつつ、学科の近況報告を終わる。

## 職場報告

シャープ株式会社AVC液晶事業本部ITシステム推進室

金澤 康弘 (平成8年3月工学研究科機械工学専攻修了)



私が勤務するシャープ株式会社は、創業者早川徳次により、1912年(大正元年)9月15日に小さな金属加工業として創業し、今日では総合電機メーカーとして幅広い取り組みを行っております。中でも、「液晶のシャープ」として知られるように、液晶ディスプレイについては最も早くから取り組んでおり、現在では当社を代表する基幹商品に成長しております。

現在、私はAVC液晶事業本部ITシステム推進室に所属し、三重県亀山市の液晶工場内で稼動しているCIM(Computer Integrated Manufacturing)システム(正確にはMES(Manufacturing Execution System:製造実行システム))の開発から導入、サポートといった一連の業務を担当しております。シャープの大型サイズの液晶テレビについてはすべてこの亀山工場で生産されており、店頭でも亀山モデルとして紹介されているため、ご存知のかたもいらっしゃるかもしれません。

半導体や液晶のような高いクリーン度を必要とする工場の場合、人間自体がダストの発生源となるため、工場内の大部分は無人化されています。また、各製造装置はネットワークを介してCIMシステムに接続され、CIMシステムより提供される各種処理条件に基づいて、自動搬送、自動生産が行われております。さらに、各製造装置の処理結果等はシステム内のデータベースに蓄積されているため、必要な時に、処理されたロットの履歴や装置の状態等を素早く引き出すことも可能です。いわば、工場内の大半の設備はこのCIMシステムによって制御、管理されているといっても過言ではなく、それだけにシステムに求められる機能や信頼性に対する要求も年々厳しくなっております。

しかし、高度化する要求にいかに対応するかというプレッシャーを感じながらも、自分で考え、導入したシステムがうまく動作した時の醍醐味は何物にも代えがたいものがあり、時には自分がこの巨大な工場を操縦しているかのような感覚を覚えることさえあります。

実は、私は最初から液晶の業務に携わっていたわけではなく、1996年に入社してから最初の5年間はICの開発部門に属し、ゲーム機や家電製品に組み込むマイクロコンピュータの設計業務等を行っておりました。

現在の業務に変わったのは2001年からですが、この時に利用したのが社内公募制度です。

社内公募制度とは、会社が必要とする業務や職種を社内に公開し、人材を募集する制度なのですが、もともと大学時代にFAやCIM等に興味を持っていて、いつか機会があれば工場の自動化に関わる仕事をしたいと考えていたところに、ちょうどこの公募が出ていたため応募し、幸運にも採用されることとなりました。大手では比較的採用が進んでいると言われる社内公募制度ですが、このような制度が存在し、利用できたことは自分にとっては幸運だったと感じています。

現在、液晶やプラズマテレビに代表されるフラットパネルディスプレイ業界は非常に厳しい競争の中にあり、いろいろと大変な所もありますが、最新の技術や動向に触れられる機会も多く、そのような仕事ができる機会を与え、また任せてくれた会社には感謝しています。

最後に、これから就職される方々に対するメッセージですが、どのような職種に就くにしても、その仕事に興味を持ち、極めることができれば、それは幸せなことだと思います。実際にそのような心境に達することはなかなか難しいことあるのですが、これから人生の時間の大部分を占めることになる仕事の充実度はそのまま人生の充実度にもつながることになるので、できるだけ楽しみながら仕事ができるよう心がけていただければ幸いです。



株式会社 資生堂品質保証センター 分析研究所長

小山 純一 (昭和50年3月工学研究科合成化学専攻修了)



資生堂は明治5年(1872年)に福原有信により日本初の洋風調剤薬局として東京銀座に誕生しました。漢方薬が主流の時代にあつて、まだ日本にはない医薬分業システムの実践を志したものであり、この新進気鋭の考え方は現在まで

続いている基盤の考え方となっています。その意味で研究所の設立も古く、1916年に創立された資生堂試験室がルーツとなっており、現在は研究部門として500名強の研究員よりなるリサーチセンターとして組織されています。資生堂の事業内容は化粧品をはじめ医薬品、食品、ファインケミカルなど多岐にわたっているため研究分野も広く、リサーチセンターでは新製品開発を目指す処方研究、皮膚生理や脳機能の解明を目指したライフサイエンス研究、新しい機能や効果を持った薬剤や素材の開発研究、品質を保つための保証研究、美容法の研究、さらには液体クロマトグラフィー装置やカラム充填剤の開発、医薬品、食品分野の研究がなされています。国内では研究領域別に7つの研究センターとスタッフ部門から成り立っています。さらに米国ではハーバード医科大学、マサチューセッツ総合病院と共同で皮膚科学の基礎研究所を設立し、研究員の派遣も含めた産学共同の運営をしています。そのほかアジア、EU、アメリカにR&Dの拠点をもち、地域柄に合わせたグローバルな研究活動を展開しています。

私の所属する分析研究所は安全性研究や微生物研究と共に品質保証センターに位置づけられています。品質保証部門はお客さまに品質の保証された安全な商品をお届けし、安心して使用して頂くためになくはない存在であり、メーカーの信頼を背負っているとも言えます。昨今のメーカーの安全神話の崩壊が報道されるたびに改めて身を引き締めさせられる部門です。

分析研究所の主な業務は化粧品原料の構造や組

成の解析と規格の作成、薬剤の分析法の開発と安定性の保証、他メーカーの化粧品の分析が主な業務になっています。この他に化粧品開発や基礎研究において様々な現象解明を担当部署と共同で進める研究的な業務があります。分析技術を活用すると言う名目で様々な仕事ができる部署です。分析装置であるカラム充填剤も粉末処理技術と分析技術が一体となり分析研究から派生したものです。私自身は入社まもなく分析部門に配属され、当時まだ確立されていなかった生体成分の分析法に取り組み、それが高じて畑違いの皮膚科学の研究に会社人生の半分を費やしてきました。その後、研究管理部門を経験し、現在は元に戻り、分析研究所を任されています。

学生時代は有機合成が専攻でしたが、資生堂への入社にあたって、化粧品会社は化学とは縁の遠いもの、ただモノを混ぜるだけの世界なので面白くないのでは?とよく言われました。しかし、幸いなことに配属された分析研究部門で有機物の分離、構造解析などに学生時代に学んだことが大いに役立ちました。学生時代に苦労したデータも充実した機器により短時間で出せたことに驚いたのを今も覚えています。また、皮膚研究に携わっていた時には学生時代の研究テーマである酵素活性の測定技術や知識が新しい研究の完成に結びつくという幸運にも恵まれました。分野は違っても身についた経験や考え方は色々な分野で役立てることができたと思っています。

今年の新人を加えて、資生堂の研究部門には岡山大学出身者が現在7人います。色々な学部から来て、種々の分野で活躍されています。まんざら、関係のない会社でもなく、同窓の者が研究活動で頑張っていることを記憶に留めて頂き、これまで以上に親しみを持って頂ければ幸いです。





## [新任教員の紹介]

## ○平成18年4月1日付け就任

- 大学院自然科学研究科 (物質応用化学科)  
大阪大学 大学院工学研究科 助教授

教授 和田 雄 二

- 大学院自然科学研究科 (情報工学科)

日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所 主幹研究員

教授 名古屋 彰

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)

広島市立大学 大学院情報科学研究科 教授

教授 村田 厚生

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)

神戸大学 大学院自然科学研究科 博士後期課程 修了

助手 内田 真

- 大学院自然科学研究科 (電気電子工学科)

東北大学 金属材料研究所 研究機関研究員

助手 山田 博 信

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)

特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構 研究員

助手 亀川 哲 志

- 大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科)

大阪大学 大学院情報科学研究科 博士後期課程 修了

助手 福島 行 信

- 大学院自然科学研究科 (生物機能工学科)

東京工業大学 大学院生命理工学研究科 博士課程 修了

特別契約職員 (助手) 遠藤 玉 樹

## ○平成18年5月1日付け就任

- 工学部 生物機能工学科

岡山大学大学院自然科学研究科 博士後期課程 修了

特別契約職員 (助手) 二見 翠

## [叙勲者紹介]

## ○平成18年春の叙勲

- 本 田 和 男

名誉教授 (機械工学科) 瑞宝重光章

- 物 延 一 夫

名誉教授 (工業化学科) 瑞宝中綬章

## [昇任教員の紹介]

## ○平成18年5月1日付け昇任

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)  
大学院自然科学研究科 (システム工学科) 助手

講師 宗澤 良 臣

## ○平成18年7月1日付け昇任

- 大学院自然科学研究科 (機械工学科)  
大学院自然科学研究科 (機械工学科) 講師

助教授 岡田 晃

- 大学院自然科学研究科 (電気電子工学科)  
大学院自然科学研究科 (電気電子工学科) 講師

助教授 佐藤 雅 稔

- 大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科)  
大学院自然科学研究科 (通信ネットワーク工学科) 講師

助教授 中西 透

## [定年、転出、退職教員の紹介]

## ○平成18年3月15日付け退職

- 大学院自然科学研究科 (電気電子工学科)  
→大阪大学 大学院基礎工学研究科 助教授

助手 西 竜 志

## ○平成18年3月31日付け定年退職

- 大学院自然科学研究科 (物質応用化学科)  
→岡山大学 特命教授 (研究)

教授 阪田 祐 作

- 大学院自然科学研究科 (情報工学科)  
→自適

教授 正木 亮

## ○平成18年3月31日付け退職

- 大学院自然科学研究科 (電気電子工学科)  
→大分大学 工学部 教授

助教授 長屋 智 之

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)  
→首都大学東京 システムデザイン学部 教授

助教授 梶原 康 博

- 大学院自然科学研究科 (システム工学科)  
→大阪工業大学 情報科学部 助教授

講師 平嶋 洋 一

- 大学院自然科学研究科 (情報工学科)  
→豊橋技術科学大学 工学部 講師

助手 菅谷 保 之

## [受賞研究の紹介]

職	所属学科	氏名	受賞名	受賞日
教授	機械工学科	塚本 眞也	内山勇三科学技術賞	17.7.12
助手	物質応用化学科	内田 哲也	岡山工学振興会科学技術賞	17.7.12
教授	生物機能工学科	中西 一弘	日本食品工学会学会賞	17.7.29
教授	電気電子工学科	小西 正躬	計測自動制御学会論文賞	17.8.9
講師	電気電子工学科	今井 純		
助手	電気電子工学科	西 竜志	日本工学教育協会工学教育賞	17.9.9
教授	機械工学科	塚本 眞也		
助教授	機械工学科	大橋 一仁	電子情報通信学会情報・システムソサイエティ活動功労賞	17.9.9
教授	情報工学科	金谷 健一		
教授	物質応用化学科	坂田 祐作	英国連邦・外国部局地球連携基金 英国-日本共同研究促進賞 -環境維持のための化学	17.9.22
教授	機械工学科	宇野 義幸	日本機械学会生産加工・工作機械部門優秀講演論文賞	17.10.20
助手	機械工学科	岡本 康寛		
教授	物質応用化学科	高田 潤	第8回「ロレアル 色の科学と芸術賞」金賞-国際賞	17.10.21
助教授	物質応用化学科	藤井 達生		
助教授	機械工学科	岡田 晃	日本機械学会The Outstanding Young Researcher Award	17.10.21
教授	機械工学科	富田 栄二	SAE Harry LeVan Horning Memorial Award	17.10.26
教授	生物機能工学科	穴戸 昌彦	日本ペプチド学会学会賞	17.10.28
助教授	物質応用化学科	黒星 学	有機合成化学協会中国四国支部奨励賞	17.11.12
助手	電気電子工学科	西川 亘	プラズマ・核融合学会第13回論文賞	17.11.30
助手	電気電子工学科	七戸 希	低温工学・超伝導関西若手奨励賞	17.12.5
講師	物質応用化学科	押木 俊之	第10回岡山リサーチパーク研究・展示発表会奨励賞	18.1.27
助手	電気電子工学科	七戸 希	電気学会優秀論文発表賞	18.3.10
助教授	情報工学科	田端 利宏	船井情報科学振興財団船井情報科学奨励賞	18.3.10
教授	機械工学科	塚本 眞也	日本機械学会フェロー	18.3.22
教授	システム工学科	鈴森 康一		
講師	物質応用化学科	押木 俊之	日本化学会技術進歩賞	18.3.28
教授	電気電子工学科	村瀬 暁	日本規格協会IEC活動推進会議議長賞	18.5.10
教授	生物機能工学科	尾坂 明義	2004JCerSJ優秀論文賞	18.5.27
助教授	生物機能工学科	早川 聡		
助手	生物機能工学科	都留 寛治		

## [学位取得者名簿]

授与月日：2005年9月30日

【課程博士】

氏名	学位論文名	専攻分野 の名称	専攻名	大講座名	主査教員名
尾崎 亮	射影変換の高速化に関する研究	工学	知能開発科学専攻	知識処理系開発学	杉山 裕二
王 鳳	Efficient Square Root Algorithms over Extension Fields GF(pm) (GF(pm)上の高速な開平演算アルゴリズム)	工学	数理電子科学専攻	情報通信システム学	森川 良孝
松本 洋平	FPGAの配線アーキテクチャに関する研究	工学	数理電子科学専攻	知能計算システム学	正木 亮
野川 修一	電力用リアクトルの漂遊損失・局部損失に関する研究	工学	数理電子科学専攻	電気電子システム学	高橋 則雄
高 雷	空気圧ゴム人工筋を用いた腰部装着型パワーアシストロボットの開発	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	則次 俊郎

DATU RIZAL AS-RAL	An Operational Engineering Perspective for Supporting Process Safety in Batch Plant (バッチプラント安全支援を目的としたプラントオペレーション工学)	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	鈴木 和彦
楊 志暎	Novice-Oriented Human Interface for a Search and Rescue Robot System (初心操作者指向の搜索レスキューロボットのインターフェース)	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	五福 明夫
國次 真輔	ディップコーティング法によるMo材料の表面改質に関する研究	工学	物質分子科学専攻	材料機能化学	高田 潤
趙 春暉	Analysis of a Complex Formation of Cysteine Synthase from Escherichia coli and Its Application to Production of Nonproteinaceous Amino Acids (大腸菌由来のシステイン合成酵素の複合体形成機構の解明と非タンパク性アミノ酸生産への応用)	学術	生体機能科学専攻	生体機能設計学	中西 一弘
平良 光	Development of novel tRNAs for efficient incorporation of nonnatural amino acids (効率の良い非天然アミノ酸の導入のための新規tRNAの開発)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	宍戸 昌彦
喻 東威	Development of a novel DDS vector -- Specific delivery of proteins to human hepatocytes with engineered Bio-nanocapsule (新規DDSベクターの開発に関する研究: 蛋白質をヒト肝臓細胞に特異的に送達するバイオナノカプセル)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	妹尾 昌治
藤井 英司	金属酸化物複合型ヒドロキシアパタイトの創成と生理活物質の特異吸着現象	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	尾坂 明義

授与月日：2005年9月30日

## 【論文博士】

氏 名	学位論文名	専攻分野の名称	専攻名	大講座名	主査教員名
NGUYEN DANH NGUYEN	APPLYING LEAN THINKING PARADIGM FOR HIGHER EDUCATION IMPROVEMENT (高等教育の改善方法へのリーン方式の枠組みの適用)	学術	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	宮崎 茂次
北松 瑞生	Conformationally-Restricted Peptide Nucleic Acids with Pyrrolidine Rings in the Main Chains (ピロリジン環を主鎖に含むコンホメーション的に制約されたペプチド核酸)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	宍戸 昌彦

授与月日：2006年3月24日

## 【課程博士】

氏 名	学位論文名	専攻分野の名称	専攻名	大講座名	主査教員名
横山 和俊	高性能Webサーバの構成法に関する研究	工学	数理電子科学専攻	知能計算システム学	谷口 秀夫
坂上 文彦	Homogeneous Eigenspaces for Object Recognition by Computer Vision (コンピュータビジョンによる物体認識のための同次固有空間)	工学	数理電子科学専攻	知能計算システム学	尺長 健

中辻 敦忠	特徴点に基づいた画像からの3次元形状復元のための三角網の最適化	工学	数理電子科学専攻	知能計算システム学	金谷 健一
SULAIMAN AL-SEHAIM	分散エージェント法を用いた生産システムにおける設備運用の高度知能化に関する研究	工学	数理電子科学専攻	電気電子システム学	小西 正躬
桑田 稔	高調波が流入する電力用リアクトルの小形化に関する研究	工学	数理電子科学専攻	電気電子システム学	高橋 則雄
馬 有理	圧縮残留応力を有する混合モード条件下の疲労き裂伝ば挙動に関する研究	工学	基盤生産システム科学専攻	機械製造開発学	鳥居太始之
馬 加彬	Rolling Contact Fatigue of Alumina Ceramics Coating Sprayed on Steel Roller (アルミナセラミックス溶射皮膜鋼ローラの転がり疲れ)	工学	基盤生産システム科学専攻	機械製造開発学	吉田 彰
劉 思健	部分多孔質セラミックスを用いた静圧空気ガイドに関する基礎的研究	工学	基盤生産システム科学専攻	機械製造開発学	吉田 彰
横溝 精一	硬脆材料の高品位精密加工とその表面特性の評価に関する研究	工学	基盤生産システム科学専攻	機械製造開発学	宇野 義幸
西川 尚宏	電気防錆加工法の開発研究	工学	基盤生産システム科学専攻	機械製造開発学	塚本 眞也
鄭 思陽	機能モデルに基づく定性因果推論過程の簡略説明の生成手法に関する研究	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	五福 明夫
滝 聖子	料理ロボットシステムの開発に関する研究	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	梶原 康博
常定 和也	実・仮想空間での作業モデルの構築に関する研究	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	梶原 康博
梶島 賀敬	石炭ガス化発電プロセス排出ガスからのアルカリ成分および硫黄成分の除去に関する基礎研究	工学	物質分子科学専攻	材料機能化学	阪田 祐作
内田有紀子	金属分散炭素系電磁波吸収複合材料の作製と物性に関する研究	工学	物質分子科学専攻	材料機能化学	高田 潤
高橋 聡	Study on Hydrogen Bonding Systems of Trifluorolactates for Crystal Engineering (結晶工学を指向したトリフルオロ乳酸エステルの水素結合に関する研究)	工学	物質分子科学専攻	物質反応化学	宇根山健治
滝川 剛	Preparation and Synthetic Application of Silyl Enolates of $\alpha$ -Trifluoroacetyl Carbonyl Compounds ( $\alpha$ -トリフルオロアセチルカルボニル化合物のシリルエノラートの調製とその合成化学的応用)	工学	物質分子科学専攻	物質反応化学	宇根山健治
趙 佳明	歯科インプラントの生体組織との融合性に関する基礎的研究	学術	生体機能科学専攻	生体機能設計学	尾坂 明義
岡 直美	G-CSF受容体を介する好中球分化誘導のシグナル伝達機構の解析	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	酒井 裕
相川 利昭	Molecular Designs of 2-Propynyl Cations and Their Applications to Diverse Organic Syntheses (2-プロピニルカチオンの分子設計とその多様な有機合成への応用)	学術	生体機能科学専攻	生体機能設計学	斎藤 清機
吉岡 朋彦	Surface modification of metal with organic layers and their interactions with blood components (金属表面への有機分子修飾層の作製と血液成分との相互作用)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	尾坂 明義

梶原 大介	FRET analysis of protein structures and functions using nonnatural amino acid mutagenesis (非天然アミノ酸変異導入法を用いたタンパク質構造・機能のFRET分析)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	宍戸 昌彦
濱田 浩幸	Position-Specific Incorporation of Fluorescent Amino Acids into Proteins for Fluorescence Sensing (蛍光性アミノ酸を位置特異的に導入した蛋白質の創製とその蛍光センシングへの応用)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	宍戸 昌彦
拓 亜	Development of novel cell surface marker DNA microarrays and characterization of cells and tissues (新規DNAマイクロアレイの開発及び細胞表面マーカー探索への応用)	工学	生体機能科学専攻	生体機能設計学	妹尾 昌治
武内 秀樹	希薄気体流れにおける固体壁面での気体分子干渉に関する分子動力的研究	工学	エネルギー転換科学専攻	エネルギーシステム学	柳瀬真一郎
MONDAL RABINDRA NATH	Isothermal and Non-isothermal Flows through Curved Ducts with Square and Rectangular Cross Sections (正方形・矩形曲がり管内中の流体・熱流体に関する研究)	工学	エネルギー転換科学専攻	エネルギーシステム学	柳瀬真一郎
陳 恵青	油圧ポペット弁の特性評価に関する研究	工学	エネルギー転換科学専攻	エネルギーシステム学	鷺尾 誠一
前田 健作	冷媒の中間圧相変化を利用した除湿サイクルに関する研究	工学	エネルギー転換科学専攻	エネルギーシステム学	堀部 明彦

授与月日：2006年3月24日

## 【論文博士】

氏 名	学位論文名	専攻分野の名称	専攻名	大講座名	主査教員名
佐々木大輔	空気圧ソフトメカニズムを用いた生活支援ロボットの開発とその応用に関する研究	工学	基盤生産システム科学専攻	知能機械システム学	則次 俊郎
中田 達	環境調和型流動抵抗低減界面活性剤水溶液の管内流動と熱伝達に関する研究	工学	エネルギー転換科学専攻	エネルギーシステム学	堀部 明彦



## [ 同窓会会計報告 (平成17年度) ]

岡山大学工学部同窓会の平成17年4月1日から平成18年3月31日までの平成17年会計年度の決算を報告いたします。

同窓会会計は一般会計と特別会計に区分されており、一般会計は会の中心的会計として入会金収入を基とし、会の運営経費の全てを含んでおります。特別会計は同窓会の記念事業費として一般会計と区分して管理しております。

### 一 般 会 計

### 収 支 計 算 書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	2,790,300	3,098,310	△308,010	312名 { @9,940×15 @9,930×297
2. 寄附金収入 寄附金収入	474,200	1,165,500	△691,300	{ 創立45周年記念事業 (別紙1) 名簿発刊事業
3. 雑収入	1,035,200	1,030,102	5,098	
受取利息	120,000	114,942	5,058	普通、郵貯、有価証券
懇親会費	915,200	915,160	40	創立45周年記念事業 (別紙1)
当期収入合計(A)	4,299,700	5,293,912	△994,212	
前期繰越収支差額	5,671,302	5,671,302	0	
収入合計(B)	9,971,002	10,965,214	△994,212	
II. 支出の部				
1. 事業費	2,249,300	2,209,463	39,837	
通信運搬費	878,600	844,669	33,931	会報、入会案内外郵送料
会議費	150,000	102,564	47,436	学科連絡委員会
印刷製本費	1,040,700	1,188,178	△147,478	会報、入会案内、封筒外
助成金支出	100,000	11,520	88,480	関東支部助成
消耗品費	10,000	732	9,268	
同窓会活性化経費	60,000	60,000	0	ホームページ作業料
雑費	10,000	1,800	8,200	
2. 学科事業費 学科配分会費	421,500	468,000	△46,500	312名 @1,500-
3. 管理費 業務委託費	360,000	360,000	0	(助)岡山工学会振興会
4. 工学部創立45周年記念事業費	1,396,300	1,402,037	△5,737	(別紙1)
当期支出合計(C)	4,427,100	4,439,500	△12,400	
当期収支差額(A)-(C)	△127,400	854,412	△981,812	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,543,902	6,525,714	△981,812	

### 基金特別会計

### 収 支 計 算 書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 雑収入 受取利息	120,509	有価証券
当期収入合計(A)	120,509	
前期繰越収支差額	2,683,176	
収入合計(B)	2,803,685	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	120,509	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,803,685	

# 同窓会名簿発刊について

拝啓

会員の皆様には、益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

工学部創立45周年記念事業として決定された工学部同窓会名簿の発行につきましては、当初6月発行の予定で作業を進めて参りましたが、個人情報保護法の制約等により、調査確認作業が予想以上に時間を費やしたため、発行が大幅に遅れ漸く10月発行の運びとなりました。その間、名簿申込をされた方々には大変ご迷惑とご心配をお掛けし、深くお詫び申し上げます。

なお、この名簿が同窓会会員相互の情報交換、就職時の情報入手等にご活用いただくためにも、名簿購入にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。お申込につきましては、同窓会事務局までご連絡下さい。その際には、ご本人の確認をさせていただく場合がございますので、ご了承下さい。

最後に会員皆様のご健勝とご活躍お祈りいたします。

敬具

平成18年10月吉日

岡山大学工学部同窓会

代表幹事 加藤 圭一

同窓会事務局

TEL・FAX 086-255-8311

E-mail: ofst@cc.okayama-u.ac.jp

## 寄 附 者 一 覧 (H18.11.8~H18.6.21)

下記のとおり、269名の方々からのご寄附を賜りました。誠にありがとうございました。

<b>【機 械 系】</b>	S51 修 本 田 研一	<b>【化 学 系】</b>	S52 逢 澤 薫	H11 井 上 智博	S53 前 田 康雄	H13 安 井 隆
S39 新 居 哲	S52 市 川 賀与	S39 井 上 堅 大 郎	S52 高 尾 彰一	H14 泉 好古	S53 益 城 浩 司	H13 藤 山 真一
S39 市 田 捷之	S52 砂 川 芳 毅	S39 富 永 昌 和	S52 松 島 秀 幸	H17 福 村 六 喜	S54 井 上 喜 一 郎	H14 田 口 弘 治
S39 高 畑 邦 彦	S52 修 内 藤 俊 一	S39 坂 東 靖 夫	S52 渡 部 一 朗	旧 職 赤 木 靖 春	S54 清 水 英 範	H14 名 村 信 彦
S40 井 上 芳 宏	S53 吉 川 潔	S40 島 村 秀 彦	S53 奥 本 寛	旧 職 高 橋 克 明	S54 豊 岡 秀 樹	H15 横 山 要 人
S40 井 上 善	S54 岡 本 改 造	S40 坪 井 貞 夫	S53 小 島 淳	旧 職 鳥 居 洋 子	S54 修 岡 田 安 晴	H17 大 森 誠
S40 大 嶋 晃	S54 川 嶋 誠 吾	S40 畑 本 一	S54 青 山 求	旧 職 松 野 隆 一	S55 栗 山 俊 寛	H17 藤 田 卓 志
S40 田 中 豊	S55 角 田 庸 人	S41 長 江 弘 行	S54 馬 場 正 之		S56 伊 藤 整	H17 山 本 隆 之
S40 沼 田 昭 雄	S55 潟 山 英 幸	S41 星 島 啓 之	S54 松 下 聖 志 郎	<b>【電 気 系】</b>	S56 居 安 正 勝	旧 職 鈴 井 晴 久
S40 御 手 洗 政 則	S55 堀 川 琢 也	S41 三 浦 嘉 也	S55 岡 田 康 夫	S41 棚 田 嘉 博	S56 川 村 久 男	旧 職 納 所 孝 至
S41 大 谷 昌 隆	S56 合 田 光 利	S42 草 野 倜	S56 栗 山 宏 子	S41 野 崎 尚 武	S56 小 曳 満 昭	
S41 佐 藤 宏 一	S56 中 川 吉 司	S42 中 島 功 雄	S56 三 宅 誠 治	S41 原 田 正 憲	S56 藤 原 毅	<b>【生 物 系】</b>
S41 田 中 孝 雄	S57 村 松 聡	S43 田 中 饒 一 良	S57 逸 見 伸	S42 加 藤 圭 一	S58 魚 森 謙 也	H5 岡 部 浩 幸
S41 中 江 久	S57 宮 武 勤	S43 山 口 博 己	S57 越 智 茂 文	S42 難 波 卓 二	S58 佐 藤 幸 德	H6 二 見 淳 一 郎
S41 宮 崎 良 之	S57 山 下 一 典	S44 向 田 一 彦	S57 坂 本 徹	S42 湯 浅 芳 郎	S58 溝 上 雅 人	H7 中 山 清 貴
S42 大 内 基 靖	S61 今 井 健 二	S44 安 木 孝	S57 山 本 健 男	S43 秋 山 進	S59 小 原 彰 敏	H9 武 本 真 治
S42 佐 藤 修	S61 大 坪 秀 彦	S45 尾 坂 明 義	S57 修 河 南 俊 郎	S43 網 島 宣 武	S60 三 浦 光 城	H10 三 木 善 博
S42 田 中 勲	S61 馬 場 信 介	S45 鎌 木 史 朗	S58 福 田 智	S43 板 谷 康 夫	S62 田 中 始 男	H11 池 田 和 正
S42 山 本 信 生	S62 大 橋 一 仁	S45 国 富 多 喜 二	S58 森 崎 一 男	S43 苜 田 充 二	H2 小 林 弘 和	H13 小 林 伸 行
S42 渡 辺 晃	H1 宮 武 俊 輔	S46 松 木 統 生	S58 修 竹 内 仁 也	S44 角 南 修 平	H2 堀 江 由 高	H14 坂 川 浩 平
S43 上 間 恒 義	H2 牧 野 和 宏	S47 金 安 利 和	S60 戸 田 泰 行	S44 河 内 実	H3 豊 田 啓 孝	H15 勝 端 哲 也
S43 川 田 忠 義	H4 博 宮 西 希 一	S47 栗 原 陽 一	S60 渡 部 久	S44 雛 元 孝 夫	H7 尾 崎 敏 之	H17 小 塚 昌 弘
S43 小 谷 俊 夫	H5 宗 澤 良 臣	S47 二 宮 清 太 郎	S60 渡 部 ゆ き	S45 溝 尾 真 一	H8 青 野 浩 二	H17 都 塚 真 史
S44 笠 原 伸 一	H6 藤 井 新 治	S47 橋 森 信 行	S61 永 松 明 子	S46 真 鍋 健 次	H9 寺 迫 秀 紀	
S44 宮 崎 進	H10 川 合 英 造	S47 前 田 耕 二	S62 黒 瀬 哲 男	S46 横 田 吉 雄	H9 前 田 榮 一	<b>【シ ス テ ム 系】</b>
S45 逸 見 正 治	H10 辻 竜 彦	S47 松 本 章	S62 花 谷 誠	S46 四 谷 守 彦	H11 野 崎 昌 宏	H13 楠 本 泰 久
S46 柄 川 尚 慶	H10 中 江 拓 志	S48 岩 屋 寛 義	S63 布 川 隆 志	S47 大 月 修	H12 磯 部 孝	H15 岡 崎 聡
S46 佐 藤 正 明	H10 万 谷 義 和	S48 小 山 純 一	H 元 田 中 涼 二	S47 三 宅 通	H12 上 野 仁 嗣	H16 金 本 孝 泰
S46 長 尾 和 彦	H12 藤 原 敏 博	S48 德 升 晶 次	H 元 博 田 中 基 明	S49 高 橋 則 雄	H12 坂 川 欣 也	H17 小 杉 雅 明
S46 二 宮 俊 明	H13 大 井 義 規	S49 作 本 博 則	H3 渡 辺 義 弘	S49 水 田 信 吾	H14 藤 田 万 雄	旧 職 大 崎 紘 一
S47 萩 野 裕 司	H15 別 府 靖 之	S49 仁 科 裕 人	H4 浅 原 雅 浩	S51 佐 藤 祐 一	H16 中 根 貴 史	
S47 神 谷 昇	H16 殿 河 内 哲 也	S49 西 森 達 雄	H4 小 川 啓 一	S51 小 嶋 英 幹	H17 清 水 明 宏	<b>【通 信 系】</b>
S47 木 原 道 郎	H16 中 北 浩	S49 万 袋 靖 介	H4 重 岡 俊 昭	S51 小 桐 上 雄	H17 積 山 泰 和	H16 高 橋 優 介
S47 竹 村 賢 次	H17 枝 広 俊 樹	S50 白 田 真 久	H4 洲 脇 芳 久	S51 松 原 孝 史	旧 職 山 本 辰 馬	H16 日 高 善 仁
S47 永 井 誠	H17 白 神 浩 平	S50 貞 包 章	H5 玄 場 昭 子	S51 山 下 隆 雄		教 員 森 川 良 孝
S48 芝 川 重 博	H17 中 筋 寛 明	S50 中 田 賢 三	H5 三 村 明	S53 瀧 山 英 幸	<b>【情 報 系】</b>	
S48 修 恩 藤 哲 哉	H17 船 越 亮	S50 新 浜 光 一	H5 宮 崎 修 暢	S53 小 林 稔 史	H3 大 西 淳	
S49 高 上 禮 行	H17 村 上 健 二	S51 祇 園 讓	H7 堅 田 勇 人	S53 甲 野 順 一	H3 平 山 浩 二	
S49 松 川 敏 胤	旧 職 太 田 陸 奥 雄	S51 高 田 十 志 和	H7 博 草 野 圭 弘	S53 諏 訪 守	H7 木 下 剛 毅	
S50 浅 野 嘉 德	旧 職 嶋 本 讓	S51 中 井 日 出 海	H8 三 澤 重 治	S53 寺 尾 章	H8 畠 山 昌 也	
S50 千 原 一 夫	旧 職 山 本 恭 二	S51 水 田 英 雄	H9 藤 原 和 子	S53 中 尻 三 夫	H12 森 永 晃 広	

**工学部同窓会ホームページ**<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>

工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をお届けします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています!

・同窓会関係の行事のお知らせ

・みなさまの近況

・同窓生の方がお持ちのホームページへのリンク

・同窓生による寄稿(文章、写真など)

その他なんでも結構です。是非工学部同窓会事務局 ofst@cc.okayama-u.ac.jp までお知らせ下さい。工学部同窓会ホームページへのご要望もどンドン事務局の方へお知らせ下さい。

**同窓会事務局より****支部活動の助成について**

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として180円/人・回を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

**同窓会事務局の住所が変わりました**

平成18年4月1日から岡山大学構内に移転しました。

「新住所」 〒700-8530

岡山市津島中三丁目1番1号

岡山大学新技術研究センター内

**同窓会報への寄稿などのお願い**

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。

●職場報告：600～1200字程度 ●会員グループ報告：600～1200字程度 ●最近の研究から：8000字まで(図・表を含む)

●会員短信：800字以内(近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等) ●通信：400字以内

いずれも写真(顔写真あるいは関連写真)を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただくことがありますので御了承をお願いいたします。

**編集後記(同窓会報第18号に寄せて)**

工学部同窓会報18号をお届けします。平成18年3月をもちまして、物質応用化学科の阪田祐作先生、情報工学科の正木亮先生が、環境理工学部の北村吉朗(旧精密応用化学科から転出)ご退職されました。先生方の長年にわたるご指導、ご功績に対し、心から敬意と謝意を表しますとともに、今後一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。正木先生にはご健康上の理由でご寄稿いただけませんでしたでしたが、阪田先生、北村先生からメッセージをいただきました。ありがとうございます。また、阪田先生に対する思い出をご寄稿していただきました武藤先生にも感謝申し上げます。

本年度の学科紹介は生物機能工学科とシステム工学科にお願いし、職場紹介は機械工学科と合成化学科の卒業生からいただきました。巻頭言をいただいた野木茂次工学部長をはじめ、原稿執筆をご快諾いただきました尾坂明義先生、則次俊郎先生、金澤康弘氏(シャープ株式会社)、小山純一氏(株式会社資生堂品質保証センター)に感謝申し上げます。

今年は同窓会名簿発行の年でしたが、発行が予定より遅れましてご迷惑をおかけしております。昨今の社会情勢を鑑みて同窓会名簿をどうするか幹事の間でも議論いたしましたし、また、みなさまにもご協力いただきました。ありがとうございます。岡山大学では同窓会活動を重視し、これまでなかった全学での同窓会を組織し、同窓会活動に力を入れていこうとしています。今後とも岡山大学工学部同窓会ひいては岡山大学同窓会をよろしくお願い致します。

学内代表幹事・笹倉万里子(情報工学科)